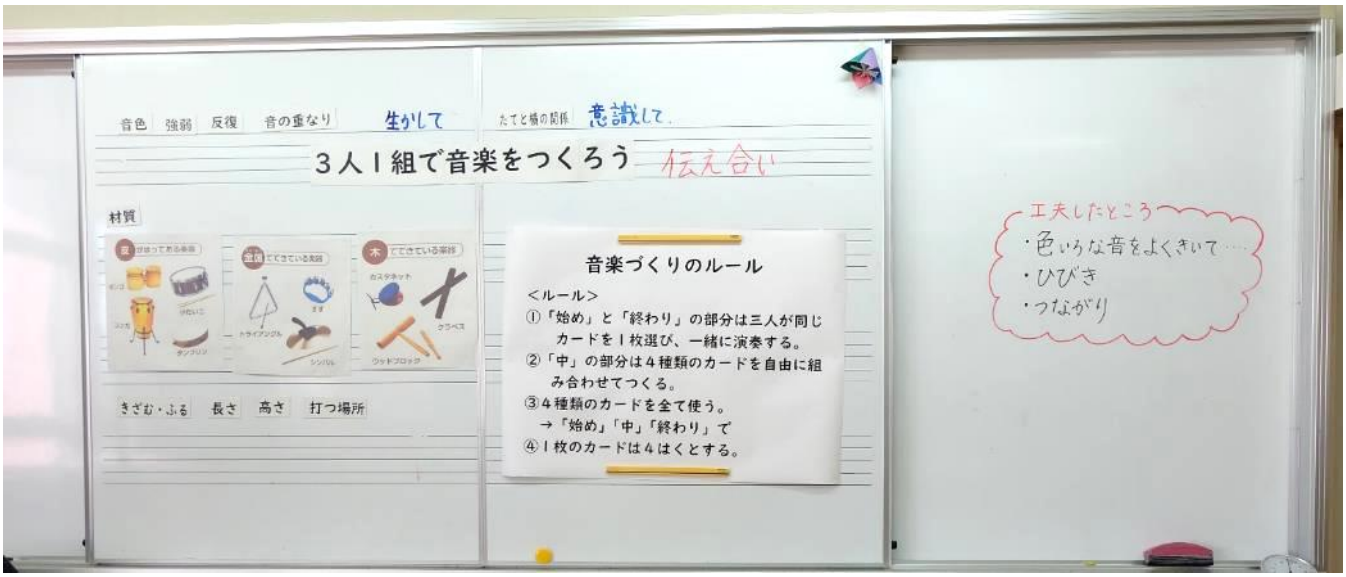
［別紙②］

# 「いろいろな音のひびきを感じとろう」

## （１）授業の様子




## （２）児童のふり返り　（ワークシートから）

・私が８拍の部分で大だいこにしたかった理由は、ひくい音で少しこわいイメージにしたかったので、大太鼓をえらびました。同じ楽器でも、「きざむ」「ふる」方法で、音が変わることにおどろきました。
・素材は同じでも、たたくところや楽器によって音がちがってすごく迷いました。できるだけ似ている音を探して、どの音とどの音程が合うかを工夫しました。
・友だちと音を聞きあって、比べあったことがとっても良かったです。自分と友だちとで音のイメージがちがったので、グループで活動をできてよかったです。

## （３）単元を通して

本時の目標は、「楽器の音色の特徴を生かして楽器を組み合わせ、音の重なりから生み出されるよさや面白さを感じとりながら、まとまりを意識した音楽をどのようにつくるかについて、自分の思いや意図をもち、伝え合うことができる」である。児童は、様々な楽器の特性や材質、演奏法など多くのことに興味をもち、学習を進めていった。Chromebook 等のＩＣＴ機器を活用する方法も考えられたが、本物の楽器を使うことで、手触りや楽器の音のちがいに気付くことができたと考える。また、「音の重なり」「音色」「反復」「たてと横の関係」など、音楽づくりのキーワードを意識させてグループ活動を行わせることで、より良い音楽づくりを行わせることができた。しかし、音楽科という特性上、評価を行うことが難しい。そのために、ワークシートや授業中のふり返りだけでなく、偶然生まれた音楽の面白さや楽器のひびきなどをＩＣＴ機器を使って録音するなど、幅広い方法を活用することが望まれる。